

Green Brave

10th Anniversary

#52 埼玉トヨペット GB GR Supra GT

AUTOBACS SUPER GT

2022 SERIES

Round 8

MOTEGI GT 300km RACE GRAND FINAL

2022年11月5日(土)～6日(日) モビリティリゾートもてぎ(栃木県茂木町)

■ 6台抜きを見せ3位表彰台を獲得。チームランキング4位でシーズン終了 ■

予選日(土曜日)の天候は晴。前戦、オートポリスでの優勝により、川合選手のランキングは5位にアップ。チャンピオンの可能性を残して、最終戦にのぞみました。第8戦はサクセスウェイトを搭載しないノーハンデ戦ですが、GR Supra GTはレギュレーションにより、エンジンパワーを絞られています。

ノックアウト予選(Q1)はA、B、2組に分かれて行われ、GR Supra GTはB組に出場。ドライバーは川合選手です。川合選手は2週のウォーミングアップの後、午前中のタイムを大幅に上回る1分46秒539をマークし、4位につけます。時間の経過とともに、川合選手の順位は後退していきませんが、ギリギリの8位でQ1を突破。上位のクルマにペナルティが科されたため、正式結果は7位となりました。Q2は約30分後に行われ、吉田選手がコースイン。ウォーミングアップを始めますが、#61BRZが最終コーナーでクラッシュ。赤旗中断となります。20分ほどの中断を挟み、残り5分で再開。吉田選手は1週のウォーミングアップのみでアタックを行い、1分46秒547をマーク。予選9位を獲得しました。

決勝日(日曜日)の天候も晴。決勝レースではタイヤ交換を伴う1回のピットストップが義務付けられています。スタートドライバー、川合選手はポジションキープで1コーナーへ。1つ順位を上げ、8位で1周目を終了します。上位の順位に大きな変動はなく、レースは進行していきますが、9周目に3コーナーで多重クラッシュが発生。すぐにFCY(フルコースイエロー)が導入され、SC(セーフティカー)に切り替わります。ホームストレートでGT500とGT300に分けられ、リスタートが近づきますが、14周目終わりのホームストレートでGT300の多重クラッシュが発生。ホームストレートは通行できないため、ピットロードを走行しながらのSC先導が続きます。川合選手は15周目の終わりに先頭をきって1回目のピットイン。SC先導中はドライバー交代が禁止されているため、短い給油のみでピットアウトします。コースに復帰した川合選手の順位は15位。レースは21周目からリスタートとなり、川合選手は10位を走行。そして24周目の終わりに2回目のピットストップを行います。吉田選手に交代し、給油とタイヤ交換を行いピットアウト。給油量が少なく済むため、短い時間でコースに復帰します。

コースに復帰した吉田選手は13位。ピットストップ義務を消化したチームの中では2位につけており、ジャンプアップ成功です。ライバルのピットストップにより、周回を重ねるごとに順位が上昇。39周目の終わりには、#55NSXに次ぐ2位となります。チャンピオン争いの本命が後退するなど、激しい順位の入替えがあり、川合選手のチャンピオン獲得の可能性が急浮上。吉田選手は追い上げる後続を必死におさえながら、チェッカーを目指します。しかし、50周を過ぎたあたりから、#87ウラカンが急接近。必死の抵抗を見せる吉田選手ですが、スピード差はあまりに大きく、57周目に3位へ。その後はポジションを守り切り、3位でチェッカーを受けました。この結果により、川合選手のドライバーランキングはトップとわずかに4ポイント差の4位。チームランキングも4位です。しかし、苦しい中盤戦を経てチームは見事に復活。チャンピオンを狙えるチームであることを証明しました。



決勝結果 (GT300)

#52 埼玉トヨペット Green Brave GR Supra GT

(吉田広樹/川合孝汰)

決勝 : 3位 (60周、2時間05分15秒272)

予選 : 9位 (1分46秒547)

DRIVERS VOICE

吉田広樹 選手



(予選後) 赤旗になってしまい、自分たちのタイミングが良かったのか悪かったのかわからないのですが、イコールコンディションだから仕方ないと思います。朝の公式練習を考えたら、予選9位で終わられ、良くできた方だと思います。タイヤのグリップを感じられなかったのですが、午後になり、SUPER GT 車両が走ることでコンディションが良くなり、自分たちが持ち込んだタイヤに合ってきたのかなと感じています。

(決勝後) 精一杯走ったのですが、まわりのクルマの追い上げに対して、耐えられるペースではなかったですね。自分たちはイレギュラーなシチュエーションを拾うしかなかったので、チームが考えてくれた自分たちの作戦は完璧でしたし、メカニックのタイヤ交換も完璧でした。やれることは全部やってくれたので、ぼくらがもうちょっと耐えて、速く走るしかなかったと思います。2位を守るために集中して走っていましたが、ランボルギーニの終盤のペースが圧倒的に速くて。おさえたかったのですが、それには限界があるというレベルでした。毎レース、攻めないといけないし、取りこぼしてもいけない。あらためてその瀬戸際が難しいシーズンだと思いました。

川合孝汰 選手



(予選後) ヒヤヒヤの予選でした。ピットの位置が最終コーナー側なので、コースインする時間、アタックするタイミングが限られてしまうので、場所取りに気をつけてアタックしました。午前中の走行ではタイヤのグリップがあまり感じられず、苦戦していたのですが、なんとか一発のタイムを出すことができ、Q1 を突破できました。Q2 に行けるかどうかは明日の決勝に影響するので、何が何でも Q1 を突破したかったです。Q1 の組み分けも運が良く、ギリギリ通れたかなという感じです。

(決勝後) これもレースですね。やりきったのではないかと思います。スタート直後に1台抜き、8位を走っていたので、自分の中では良かったと思っていますが、自分のステイントはレースという感じのステイントではなかったもので、吉田さんに頑張ってもらったと思っています。JAF-GT というクルマはもてぎで厳しいので、それを考えると本当に100点だと思います。ストレートスピードが他車と比べて全然違うので、それを考えた上で Q1 を突破し、結果的に表彰台で終わりました。チームの戦略とメカニックのタイヤ交換、本当に100点満点だと思います。

GT300 決勝結果

順位	車名(車両)	周回数
1位	ARTA NSX GT3 (ホンダ NSX GT3)	60周
2位	Bamboo Airways ランボルギーニ GT3 (ランボルギーニ ウラカン GT3)	60周
3位	埼玉トヨペット GB GR Supra GT (トヨタ GR Supra GT)	60周
4位	UPGARAGE NSX GT3 (ホンダ NSX GT3)	60周
5位	Weibo Primez ランボルギーニ GT3 (ランボルギーニ ウラカン GT3)	60周
6位	K-tunes RC F GT3 (レクサス RC F GT3)	60周

天候：晴 路面：ドライ ※トップ6まで(出走27台)

チームランキング GT300

順位	ゼッケン	チーム名	ポイント
1位	56	KONDO RACING	74.5
2位	10	GAINER	68.5
3位	61	R&D SPORT	68
4位	52	埼玉トヨペット Green Brave	66.5
5位	11	GAINER	54.5
6位	4	GOODSMILE RACING Team UKYO	53.5

※トップ6まで



PARTNERS



アルパインマーケティング株式会社



株式会社エヌ・ティ・コーポレーション



埼玉スリーボンド株式会社



株式会社西武ライオンズ



大和ラチエーター工業株式会社



株式会社 TAN-EI-SYA WHEEL SUPPLY



株式会社ドーム



株式会社日本ビューテック



Mechanix Wear LLC

1年間ご声援ありがとうございました